

出題分析		
試験時間 120 分	配点 200 点	大問数 1 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>複数の文章をもとに分析、論述を行うという形式は例年通り。昨年に比べて資料の数は2つ減少し6つだったが、ひとつひとつが長くなったため文章量としては増加。総合政策学部が掲げる「問題発見・問題解決」「社会の先導者」という理念に沿った問題であった。問3の総合政策学部での学びについては昨年も問われていた内容である。ただ、昨年は、設問に細かい注意書きが付けられていたが、今年はそのような注はなかったため、解答の自由度は高いだろう。問3は問1、問2、および各資料を関連付けて考えることが求められていたため、全体を意識することが肝要であった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	<p>問1</p> <p>知識人のあり方について4つの資料を要約する。</p> <p>問2</p> <p>福澤諭吉の考えを踏まえて、自分が重要だと思う社会問題について述べる。</p> <p>問3</p> <p>総合政策学部の理念および問1、問2の解答を踏まえ、大学での学びを通じて、どのような「社会の先導者」を目指し、問題を解決するか述べる。</p>	<p>問1。資料1～4では、知識人のあり方や知識人への批判についてそれぞれ述べられている。ただ要約するだけではなく、設問条件にあるように、各資料の違いと特徴が分かるように書くことが大事である。各資料を要約した後に、それぞれ知識人の何について書かれているのか(能力、姿勢など)、一言ずつ付け加えるといいだろう。</p> <p>問2。まず、資料5から福澤諭吉の当時の社会の捉え方と、人々に訴えたことを読み取る。挙げる社会問題については、問3で資料1～6を踏まえてどのように課題に向き合うかを書くので、資料1～6の「集団で取り組む」「二重言語能力」「総合的判断」などのキーワードを2つ以上含むものを考えよう。解答例で挙げた移民問題のほかにも、環境問題、格差の問題などを書けるだろう。</p> <p>問3。総合政策学部の「総合的に考える」という視点を軸に、問1で要約した知識人像や問2で書いた福澤諭吉の考え方についても触れながら、自分がどのように課題に向き合うか、どのような「社会の先導者」を目指すか書くとよい。</p>	標準

合格のための学習法

慶應義塾大学総合政策学部の小論文問題の特徴は、まず膨大な資料文が課されることである。資料文を隅々まで理解するのは時間的に困難なので、設問をよく読んで解答に必要なポイントを念頭に置きながら文章を読むようにしよう。特に、近年では資料単位の要約問題や資料間の関係を記述させる問題などが頻出しているため、読解力と記述力の向上を怠らないようにしたい。対策としては、新聞のオピニオン欄などで複数の異なる意見を読み、一つ一つの文章を要約することや、互いの共通点や相違点をまとめるなどの訓練が有効である。意見論述については、実証的な議論を展開できる力を身につけたい。総合政策学部の出題からは、課題解決のためにはデータの収集・分析が大切であるという大学のメッセージが如実にうかがえる。たとえば、2013年度は図表が10個も与えられ、設問の指示でも「実証的な議論を展開してください」と明記されていた。さらに、2019年度は統計・図表が全体で21個も掲げられている。対策としては、やはり日頃から新聞やニュースサイト、テレビ番組、論点集などに触れ、そこで興味深い統計やデータがあればストックしておくことが大切である。もちろん、そこではどのような分析手法を用いているのか、基礎となるデータは何か、また提示されているデータにどれだけの信憑性や有効性があるのか、数値の「分母」は何か、複数の解釈の余地はないかといった、批判的・客観的な視点を忘れないようにしよう。また、2025年度と2026年度は総合政策学部における学びが問われていたため、大学で何をどのような姿勢で学び、何を目指すかなどについても大学のホームページなどを参考に考えておこう。